

HHMにゆーす

『HHMにゆーす』は、ホームホスピス宮崎の新しい動きや情報、ボランティア活動のあれこれをお伝えします。

旅が終われば家に帰るように、人生の旅の終わりに家にも帰りたい

西告 暑と言っても過言ではない日々が続いています。皆様には恙なくお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが2類相当から5類に引き下げられ、人々の動きも少しずつ元の生活に戻ってきました。今、普通に生活していても感染するコロナです。HHMは感染症には常にハイリスクの方々に接する事業者です。今後とも適切な感染対策に留意していきたいと思います。

5月27日(土)、2023年度定時総会を開催し、リモートも含めて会員の方々の審議を経て、事業報告と決算が無事に承認されましたことをご報告いたします。ホームホスピス宮崎を設立したのが1998年ですから、今年ちょうど25年目を迎えました。

「旅が終われば家に帰るように、人生の旅の終わりに家にも帰りたい」そんな患者さんの希望を叶えたいと、1996年まだ在宅医療が今のように整っていない時代に、医師、看護師、薬剤師などとご遺族が集まって在宅ホスピスの勉強会を始めました。当時宮崎には緩和ケア病棟がなく、市議会と市郡医師会に設立要望書を提出したことをきっかけに「ホームホスピス宮崎」を設立したのが1998年です。その後病院の機能分化が進み、家族のあり様も変化していきました。

「家に帰りたいけど帰れない、家のような雰囲気まで長期まで過ごせる所はないですか」という問い合わせに、2004年に空いている民家を借りて「かあさんの家」を開きました。年齢も病名も症状も利用にあたって条件はなく、一軒当たり5〜6人程度で共に暮らす家で、制度を超えての仕組みづくりでした。

今、「ホームホスピス®️」として全国で66軒に広がりを見せています。



2015年には、地域での包括的な生活支援の拠点「暮らしの保健室」と「訪問看護ステーションぱりおん」を開設しました。重心児を育てているお母さんの「安心して眠れる夜は来るのかな」という呟きに衝撃を受けた訪問看護師さんは、これから必要なのは、どんなに重症の子どもでも一泊でも預かることのできる場所を設けて、親の心身の負担を減らすことだと考えました。そこで、2021年、複合型施設「HALEたちばな」を開設し、みつばち診療所、訪問看護STぱりおん、医ケア児の短期入所leilei、日中一時支援ohana、コミュニティカフェ游樞の事業が始まりました。開設から1年半、各事業とも予想を超えて多く利用していただき実績を上げています。3月には、みつばち診療所は3階から1階に改築移転し、常勤医2名体制で診療がスタートしました。

会の設立から25年、いつも現場のニーズに向き合って、どうしたらできるのかを考えて前に進んできたのだと気づかされます。と言っても、すべてが順風満帆だったわけではありません。かあさんの家は制度外事業で採算性が悪く、暫くは賞与も払えない状況でした。訪問看護STぱりおんは、ニーズにマンパワーが追いつかない状況で、今も目いっぱい頑張りが続いています。こんな時いつも皆様のご支援やご寄付に助けていただいているなと思います。

0歳から100歳まで、病があっても障がいをもっても、家で、地域で、安心して暮らせる居場所づくりに一歩一歩です。本年度も引き続き、ご支援いただきますよう宜しくお願いいたします。

認定特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎
理事長 市原美穂



今後の予定

研修事業



1 市民公開講座（映画会）

令和5年度 宮崎市在宅療養相談事業
「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえりお母さん～」
開催予定日：2023年11月11日（土）17:30開演
会場：宮崎キネマ館
参加費：500円

2 これからライフデザイン塾（終活講座）

開催予定日：2023年12月4日（月）13時30分～15時
場所：暮らしの保健室
参加費：300円
※追加講座計画中

3 がん患者と家族のためのサポーター養成講座

宮崎県がんサロン等運営支援事業業務委託
「在宅ケアを使って暮らす（仮）」
2024年（令和6年）1月開催予定
会場：未定
講師：未定

相談事業



1 ふらっとカフェ ～がん相談～

宮崎県がんサロン等運営支援事業業務委託
実施日時：毎月第2水曜日 13:30～16:00
場所：県立宮崎病院 会議室（がん拠点病院）

2 陽だまりカフェ ～認知症・認知症予防相談～

宮崎市認知症カフェ運営支援事業
実施日時：毎月第1月曜日、第4土曜日13:00～15:00
場所：暮らしの保健室
内容：介護・認知症相談、認知症予防、音楽療法など
参加費：無料

3 お薬相談カフェ ～服薬、健康相談～

休眠預金事業
実施日時：毎月第2第4月曜日 11:00～12:00
場所：HALEたちばな1F「カフェ游樞」
相談料：無料

4 在宅療養でんわ相談

令和5年度 宮崎市在宅療養相談事業
相談日：平日10時～17時
専用電話：0985-67-5003

ご支援に感謝いたします

日頃より多くの皆様からのご支援感謝申し上げます。ご寄付をはじめ、環境整備や運営ボランティア、野菜などの食品や新聞紙の物品寄付など皆様の支えがあって活動できていることを実感しております。これからも皆様のお声に耳を傾けながら、地域に根差した活動に取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



環境整備ボランティア



野菜の物品寄付

2023年1月1日～2023年7月31日までに「ご寄付いただいた皆様」

- 井上 美和子 様・日高 雅仁 様・後迫 和子 様・松枝 文子 様・大久保 育子 様・守田 真喜子 様・松井 康代 様・医療法人愛楓会 ころぎ整形外科 様
- 畑 香理 様・甲斐 ケイ子 様・小田切 シゲ子 様・小野 洋子 様・吉岡 順子 様・長友 敏 様・峰 瑞枝 様・矢野 小枝子 様・三堂 悦子 様・南谷 佳子 様
- 橋口 昌恵 様・橋口 法子 様・小原 林 様・弘中 信厚 様・関 栄子 様・久保野 剛 様・久保野 武 様・立元 雅子 様・野浪 俊子 様・松元 則子 様
- 崎田 健心 様・泉 摩依 様・岩切 洋 様・野村 拓馬 様・富田 真紀子 様・富田 美幸 様・美馬 達夫 様・原田 和子 様・蛸原 能里子 様・蛸原 和弘 様
- 株式会社コモドヴィータ 養原 幹子 様・市原 美宏 様・稲葉 厚子 様・太田 幸子 様・滝 真理子 様・内田 保寛 様・田丸 信堯 様・新津 ふみ子 様
- 萩原 耐子 様・後藤 エミ子 様・戸部 恵美子 様・上田 博孝 様・北島 望 様・竹野 広幸 様・本部 和彦 様・鬼村 智子 様

◎ 賛助会費もご寄付としております。上記は、お名前表示をご許可いただいている皆様です。そのほか匿名希望を含む72名の方からご寄付をいただきました。お名前掲載許可が確認できましたら次回のニュースレターでご紹介いたします。

※ホームホスピス宮崎は、認定NPO法人です。認定NPO法人へのご寄付は、寄付者が税制上の優遇措置（約40%相当額の所得控除または税額控除）を受けられます。また、相続や遺贈による財産をご寄付いただいた場合は、その全額が非課税となります。

【会費納入・ご寄付の方法】

- 《銀行振込》 宮崎銀行 宮崎支店 普通 1634770
口座名義：認定特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎 理事長 市原美穂
- 《郵便振替》 口座番号：01700-1-88730
加入者名：NPO法人ホームホスピス宮崎
- 《クレジットカード》 QRコードを読み取り、ホームページからの手続きとなります。マンスリーサポートや毎年の会費自動引き落としができます。



寄付のページ



ドネーションツリー（寄付の木）がカフェ游樞の壁に引っ越しました。



恒久本部前の電信柱の脇から大きなヒマワリが咲きました。アスファルトに負けずに咲く姿には元気をもらえます。「暮らしの保健室前に咲いたヒマワリ」として、7月15日の宮崎日日新聞でも紹介されました。

HALEたちばな

【住所】 〒880-0805 宮崎市橋通東3丁目1-31
【TEL】 0985-41-8980
【FAX】 0985-41-5480
【メール】 tachibana@npo-hhm.jp
【HP】 https://hale-tachibana.jp/
【FB】 facebook.com/tachibana.east3/

みつばち診療所（HALEたちばな1階）

【TEL】 0985-41-8938
【FAX】 0985-41-9800
【メール】 mitsubachi@npo-hhm.jp

HALEたちばな



認定NPO法人 ホームホスピス宮崎 本部（事務局）

【住所】 〒880-0913 宮崎市恒久2丁目19-6
【TEL】 0985-53-6056
【FAX】 0985-53-6054
【メール】 office@npo-hhm.jp
【HP】 https://www.npo-hhm.jp/
【FB】 facebook.com/homehospice.miyazaki/
【Twitter】 twitter.com/hhmiyazaki2196
【Instagram】 instagram.com/hh_miyazaki

ホームホスピス宮崎



事業所紹介

各事業所の管理者の皆さんからひとこと

HALEたちばな



HALEたちばな 施設長 堀 育子

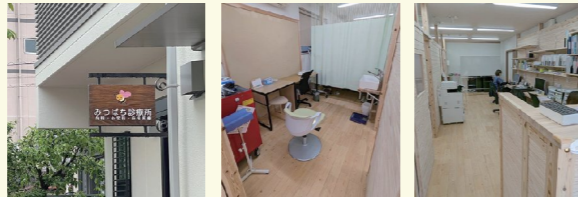
HALEたちばなは、訪問看護、診療、障がい・介護対応短期入所、日中一時支援、コミュニティカフェを運営しています。「在宅総合支援」「全世代型」と表現されることもあります。笑い声がどこからか聴こえてくる施設です。今まで家と病院を往復するだけの生活を送っていた重度障がいの1歳児が通い、泊り、そこで親が働いている(※)という状況は大きな変化です。介護士や看護師など多くの専門職が、最大限の注意と配慮をもって仕事をする事でこの場所が実現できています。2019年から理事長たちと何十回も話し合いを重ね、ようやくこの場所が実現できました。床材を決める頃には意識が朦朧となり適当に開いたカタログを指さして決めたことは今では笑い話です。建設の際はたくさんの方のご支援を頂き心より感謝申し上げます。今後とも私共にお力添えをいただけましたら幸いです。

※ leileiやohanaを利用している子ども達のお母さんが複数名働いています。

近況や皆さんにお伝えしたいことなどを聞きました。

この1年半の間にたくさんの患者様・ご家族や在宅医療を助ける多職種の皆様との出会いがありました。また、みつばち診療所内も医師が2名、看護師が4名に加え、開業当初は医師、看護師、事務が1名ずつの3名体勢だった頃に比べてかなりパワーアップしました。たくさんの方々に支えていただきながら、ここまで訪問診療を続けてこられたことに感謝の気持ちを忘れず、今後もスタッフ同心を込めて在宅医療を提供して参ります。今後ともよろしくお願いたします。

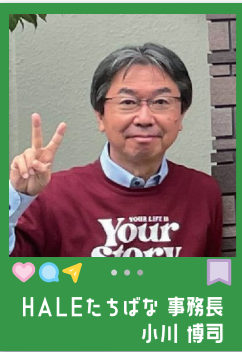
みつばち診療所



みつばち診療所は体制強化に伴い3月に3階から1階に移転しました。



みつばち診療所 院長 楠元 恭子



HALEたちばな 事務長 小川 博司

1年半前にいろいろな思いが込められた「HALEたちばな」がスタートしました。宮崎市の中心部に位置しながらも緑に囲まれた建物は、前を通る方々が一度は立ち止まって眺めている姿を目にします。利用者の方やカフェに訪れる方以外にも、その存在は広まりつつあります。この1年半の間にいろいろな課題も見つかりましたが、利用者の方々が安心して利用していただけるよう、職員全員で心を込めて乗り越えてきました。これからも4つの事業所と研修施設、カフェを併設する施設は、在宅療養支援の拠点として一步一步あゆみを進めながら、メッセージを発信していきたいと思えます。



leilei 管理者 広瀬 知佳

短期入所leileiがスタートしてから、もうすぐ2年。沢山の方に利用して頂き喜んでいただいています。毎月のように新規のご相談があり、その中で必ず聞かれることがあります。「うちの子は預かってもらえるのでしょうか？」何度も聞いた言葉です。一言に医療的ケア児と言っても、呼吸器や吸引だけではなく動けていても鼻から栄養のチューブを入れている、カニューレで酸素を使用していたり様々です。特に未就学児に関してはどこも受け入れがなく、いつも不安そうな顔で聞かれます。どうにかお預かりできるようにスタッフみんなで考え日々奮闘してきました。私たちの実体験と声が少しでも行政に伝わるといいなと…。これからも、スタッフみんなで協力しながら頑張っていきたいと思えます。

日中一時支援 ohana
日中一時支援事業が始まって1年8ヶ月が過ぎました。当初は手探り状態で試行錯誤を繰り返しながらの日々でしたが、スタッフも増え、ご利用者様のご家族からの支えもあり、軌道に乗ってきたのではないかと感じています。現在0歳～25歳までの方がご利用されていて、お兄さんお姉さんが笑顔で赤ちゃんと接しているところを目にすると、ほんわか癒されています。これからも活動や体験をする機会を増やせていけたらと考えています。



ohana 管理者 川越 やよい

かあさんの家



かあさんの家 (訪問介護STばりるん) (左から) 霧島主任:柴田 まさき・太田 幸 月貝ヶ丘主任:荒川 久美子/曾師主任:葉師 恵/管理者:甲斐 昌江

マンスリーサポーターキャンペーンのご支援ありがとうございました。さっそく第1弾として霧島でエアコンの効きが悪かったところにサーキュレータ(写真)を購入させていただきました。満遍なく冷気が行き渡るようになり、過ごしやすくなりました。かあさんの家では7月の終わりからお看取りが続きました。中には10年以上暮らしていただいた方もおられてスタッフも家族のように思っていたので、悲しい気持ちと同時に心から「今までの人生お疲れ様でした」という気持ちでした。ご家族からも最後に「かあさんの家で良かった」とのお声を聞き、スタッフ冥利につきます。コロナとの戦いもまだまだ続いていて気の抜けない状況ですが、気を引き締めながらも、かあさんの家らしくゆったりとした雰囲気作りの生活を支えています。



活動報告

つどいけあ

【休眠預金活用事業】
登録サポーターが相談に乗ります。お役立ち情報も充実の予定!

2021年より実行団体として取り組んでいる「休眠預金活用事業」事業ですが、これまでに、相談カフェ、各種体験教室(ヨガ、ウクレレなど)、ママランチ、医療的ケア家族会ミーティング(Pono)、実態調査アンケートなどを実施してきました。それらは今も継続中ですが、この事業の最終目標であった「SOSネットワーク」を「つどいけあ」という形で、この8月に立ち上げました。この「つどいけあ」は、病気や障がいがある日々の生活に医療的ケアが必要なお子様やその子をケアしている方々をサポートするウェブサイトです。いつでも匿名で相談できる掲示板やお仕事情報、サポート情報などを発信します。社会的孤立解消のための事業(重症児、医ケア児の家族及び本人の社会的孤立解消のために)



<https://tsudoicare.jp>

マンスリーサポーター



毎月のご寄付に感謝いたします
5月22日～6月30日までの期間限定で、「マンスリーサポーターキャンペーン」を行いました。これは、クラウドファンディング形式によって、毎月定額の寄付でのご支援いただく「マンスリーサポーター」を募ったものです。おかげさまで、期間内に目標であった50人を超えるサポーターの皆さまにご登録いただきました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。このご寄付の用途は、キャンペーンの目的であった「ホームホスピスかあさんの家」の維持や運営に当てられます。ご支援いただいた皆様には、ニュースレターやオリジナルシール(※)をお送りし、一部の方(※)はHALEたちばなにある「寄付の木」にお名前を掲載させていただきます。

※ 予め設定された一定の金額以上のご寄付をいただいた皆様

認知症は怖くない -自分らしく暮らす-

市民公開講座(令和4年度 宮崎市在宅療養相談事業)

2023年3月4日(土)JAアズム別館202研修室にて講座を開催し、66名の方が参加されました。はじめに、森田洋之先生に参加者層をみながら話す内容を決めていただき、高齢者の健康と医療についてお話しいただきました。続いて、森田先生も訪問診療をしている宅老所いる葉での取り組みを中迎聡子さんにお話しいただきました。その人が持っている生命力を最大限に引き出す関わりをしている中迎さん。今回は、会場での開催で、鹿児島県からお二人に会いたくて参加された方もいたようです。後日聞いた話では、この講演後に宮崎から「いる葉」の近所へ引っ越しを決意した方がいるとか。

認知症は怖くない -自分らしく暮らす-

2023.3.4 (Sat) -自分らしく暮らす- JA AZUMIホール別館 202 研修室 森田 洋之



毎月ウクレレ教室やってます。(どこの宝曜日18時半～) 黒岩

ちょっと飛地

「事務局ってどんな仕事をしているの？」と聞かれることがあります。スタッフ5名と理事の体制で、法人全体の総務・労務・経理・イベント・ボランティア・相談・広報など多岐に渡っていますが、見えない仕事が多いのかもしれませんが。「そうですね。なんでも屋です。」今年度も、様々な事業を支えていますので、よろしくお願いいたします。

本部(恒久)事務局

がん患者と家族のためのサポーター養成講座

泣くことしかできなかったわたしを変えてくれたもの ~24歳でがんになって感じたこと~

2023年2月19日(日) 暮らしの保健室とオンラインで講座を実施し、専門職だけでなく高校生から80代の方まで約50名の方が参加されました。今回は、講師に元日本テレビの記者でマギーズ東京共同代表の鈴木美穂さんを迎え、20代でがんを経験してのことやマギーズ東京の取り組みなど、お話しいただきました。後半のグループワークでは、がんサバイバーとしての経験や家族の立場としての気持ちなど、積極的に意見交換する様子が見られました。参加者からは、「体験をしないとわからないことを聞くことができ胸がいっぱいになった。」「一緒に考えること、話を聞くこと、信頼関係を築くこと、寄り添うことの大切さ、何か一つでも私にできることができればいいなと考える。手を差し伸べること、次の一歩を考えていきたい。」といった感想がありました。

宮崎県がんサロン等運営支援事業業務委託

コーディネーター 講師 板井 孝徳郎 先生 鈴木 美穂 さん

